

大学院教育学研究科

専門高校における科目「課題研究」を核としたキャリア教育の充実

担当学部等 大学院教育学研究科

担当学科等 専門職学位課程 教職リーダー講座

担当者 矢島 正 教授

◎事業概要

現在、全国の高卒業者の就職後3年以内の離職率は35.7%(2009年3月卒業者)と、就業継続に困難が生じている。この問題を解決するため、専門高校における「課題研究」を軸としたキャリア教育の充実を図る。「課題研究」とは、研究課題の設定・解決を通じて、知識や技術の深化と問題解決能力や主体性の育成を目指す専門高校の科目の一つである。この「課題研究」の実践で高い実績を挙げている利根実業高校との連携により、地域に安定した人材を供給する専門高校のキャリア教育モデルを構築する。

利根実業高等学校をフィールドとして貢献事業及び研究を行うのは、同校には専門職学位課程学校運営コースを修了した教諭が勤務し、農業系学科・工業系学科ともに必修となっている科目「課題研究」に対する大学院教員の授業支援を行う上で好適であるとともに、同校が地域との連携を密接に図り、実践的なキャリア教育を展開しているためである。また、一昨年度からの共同研究の素地があり、卒業後の生徒の追跡調査なども実施しやすい点もあった。

◎実施事業等

第1に「校内活動の充実」に関して、体験重視のカリキュラムと教材の開発を行った。2年生の「デュアルシステム」カリキュラムで生徒の社会人、職業人としての意識形成を図り、3年生の「課題研究」は「総合的な学習の時間(4単位)」を含めたカリキュラム構成を行い、体験活動の充実や生徒の学習における自己実現を図る指導を展開した。大学として授業支援や研究助言等の支援をした。

第2に「校外学習の充実」に関して、地域社会を舞台にした活動の推進を行った。3年生の「課題研究」で特色ある研究を展開した。生物生産コースの鳥獣被害対策、食品文化コースの地場産作物による新食品開発、機械システムコースの地域関係機関支援活動等を広く展開した。その中で生徒の発表力、プレゼン能力の充実を図った。大学として物品貸与等で支援した。

第3に「調査活動」として教員及び卒業生調査を行い、高校在学中の学習ニーズを分析した。大学教員によるインタビュー等を行った。その結果については、今後、発表する予定である。

◎期待される成果

第1に、地域のニーズが掘り起こせる。地域の機関や団体からニーズを丁寧に聞き取り、ニーズに基づいた貢献活動を軸に教育内容を編成する上で、高等学校が活用できる基礎資料となるデータの提供ができる。これは、他の専門高校などの進路指導のためのよい資料となることが期待される。また、地域と学校とのより望ましい関係を考察する上での資料ともなる。

第2に、卒業生の視点からのカリキュラム作りができる。卒業生への調査から、卒業後に必要となる知識・技術や意識・態度などを把握し、より必要度の高い教育内容を組み立てることができる。このことが、専門高校で学ぶ生徒の学習の充実のための知見ともなりうる。

第3に、本事業の成果をもとに他校と交流することで、全体のレベルアップを図ることができる。具体的には、産・官・学連携や高大連携など、高等学校で今後検討し、工夫改善すべきテーマに対しての具体的な実践的事例となりうる。本学教職リーダー講座では学修の一貫として専門高校について学ぶ機会を設けており、それにも活用できる。